

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 1 理念・目的

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3)学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、連関性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1)学部(学科)・研究科(専攻)の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧とHPなど)によって記述の齟齬	A
		(2)教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0101 さまざまな現場から広く社会貢献を目指した実践的研究ができる人間を育成し、研究成果を通して社会に貢献することを目的とする国際人間学研究科の掲げる教育研究上の目的は、豊かな教養、国際的な視野などを備えた人間を育成するという大学の基本理念・教育上の使命・教育目的に合致したものである。[0101・0102a]
0102 大学の基本理念・使命・教育目的および研究科・専攻の教育研究上の目的に関しては、学生便覧および大学HPに掲載、学内にもポスターで掲出し、教職員および学生に周知するとともに社会に公表している。[0101・0102a、0101・0102b、0101・0102c]

長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0102	大学 HP 上に「情報公開」というバナーを設け、国際人間学研究科のみならず大学全体に関する様々な情報を公開している。[0101・0102b、0101・0102c]
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0102	研究科・専攻の教育研究上の目的の更なる周知に努める。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
2017年度は、向上・改善に向けた新たな取り組みは行っていない。	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
0102	入試説明会やオリエンテーション時に、研究科・専攻の教育研究上の目的等について丁寧に説明する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0101・0102	a	A	2017年度 学生便覧 p.i・p.iii
0101・0102	b	A	基本理念・使命・目的 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/
0101・0102	c	A	教育研究上の目的 大学院国際人間学研究科 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_graduate_global_humanics/
0101・0102	d	A	国際人間学研究科教育理念・使命ポスター

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 2 内部質保証

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価(学内内部評価を含む)を自己点検・評価に取り入れていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
0203 本学では持続的な改善向上(質保証)を目指すために、大学全体としての自己点検・評価、各組織、部署における自己点検・評価を行っており、その方針に基づき、本研究科においても研究科長、専攻主任により自己点検・評価を行っている[0203a]	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0203	研究科長ならびに各専攻主任により研究科の自己点検・評価委員会は構成されているが、点検評価の実務を進めるに当たり、専攻内での点検・評価体制を構築する必要がある。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0203	対象年度 2017 年度のピアレビューの結果を真摯に受け止め、さらなる改善に努めていく。
0203	2018 年度以降を対象年度とする自己点検・評価に際しては、必要に応じて国際関係学部および人文学部の担当者と連携して作業を進めていきたい。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0203	a	A	中部大学の内部質保証 中部大学情報公表 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/know/quality_assurance/

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 4 教育課程・学習成果（1）

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、卒業認定・学位授与の方針(DP)を定めて、公表していますか。	(1)課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した卒業認定・学位授与方針(DP)の適切な設定を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・卒業認定・学位授与方針(DP)の設定	A
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針(CP)を定めて、公表していますか。	(1)学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施方針の設定になっていますか。	A
		(2)学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施方針の設定になっていますか。	A
		(3)授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を社会に対し、公表していますか。	A
		(4)卒業認定・学位授与の方針(DP)と教育課程編成・実施の方針(CP)は適切な連関性となっていますか。 ・「卒業認定・学位授与の方針(DP)」⇔「教育課程の編成・実施方針(CP)」との整合	A
0403	教育課程の編成・実施方針(CP)に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1)教育課程の編成・実施方針(CP)と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。(ナンバリング、カリキュラムマップ)	B
		(3)単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	A
		(4)個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	A
		(5)授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A

0403	教育課程の編成・実施方針(CP)に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(7)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401・0402	DP、CPについては、大学HPで公表している。[0401・0402a、0401・0402b、0401・0402c、0401・0402d]
0403	歴史学・地理学専攻博士前期課程においては、歴史学コースおよび地理学コースのそれぞれに対して、研究職養成型、高度専門職業人養成型、生涯教育型の履修モデルを大学HPで提示し、教育課程を体系的に編成している。[0403a] 2017年9月、教務支援課から2019年度教育課程変更の有無についての確認があり、それを受けて、各専攻主任がCPと教育課程の整合性についてチェックした[0403b]
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0403	歴史学・地理学専攻では、大学HPにおいて、前期課程の履修モデルを歴史学および地理学の各コース別に提示している。
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
国際関係学専攻、言語文化専攻、心理学専攻においても、履修モデルの策定を検討する。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資 料記号	提出 区分	根拠資料の名称
0401・ 0402	a	A	3つのポリシー 大学院国際人間学研究科国際関係学専攻 情報公表 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_international_relations/
0401・ 0402	b	A	3つのポリシー 大学院国際人間学研究科言語文化専攻 情報公表 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_languages_cultures/
0401・ 0402	c	A	3つのポリシー 大学院国際人間学研究科心理学専攻 情報公表 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_psychology/
0401・ 0402	d	A	3つのポリシー 大学院国際人間学研究科歴史学・地理学専攻 情報公表 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_historical_geography/
0403	a	A	歴史学・地理学専攻履修モデル（前期課程） https://www3.chubu.ac.jp/graduate/historical_geography/model/
0403	b	A	（教務支援課）2019年度教育課程変更手続きについて

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 4 教育課程・学習成果 (2)

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1) 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	—
		(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行なわれていますか。 ・ 授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・ 授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を講じていますか。	A
		(4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・ 授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・ 履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・ 研究指導計画（研究指導の内容および方法、年間スケジュール）を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	A
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・ シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・ 規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	A

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4) 卒業・修了要件を明確に定めていますか。	A
		(5) 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示されていますか。	A
		(6) 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	A
		(7) 学位授与に係る責任体制および手続は明確に示されていますか。	A
		(8) 適切な学位授与を行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0404 大学院の場合、とくに履修登録単位数の上限設定の必要性は感じていない。 シラバスの内容に関しては、第三者である専攻主任により点検されている。 オリエンテーション時に学事カレンダーを配付し、これに基づいて指導している。[0404a] 前期課程1年に「研究テーマ・研究計画」、「修士論文構想」、前期課程2年に「修士論文題目」、後期課程1年に「博士論文テーマ・執筆構想」を提出させることで、当該年度内の研究の進捗状況を把握し、適切な指導を行っている[0404a、0404b、0404c]	
0405 国際関係学部・人文学部の資格を満たした学生が大学院科目履修生として研究科の授業科目を早期に履修し、試験に合格した場合は、大学院入学後に10単位を上限として修了に必要な単位として認定する[0405a、0405b] 修了要件ならびに学位論文の審査基準を定めて、学生便覧に記載している。[0405c] 学位論文の審査に当たっては、修士論文・博士論文共に研究科の内規に則り、学位請求論文の審査委員会を設置し、公開審査の結果も踏まえ、審議した結果を審査報告書として取りまとめる。専攻主任連絡会で確認の後、研究科委員会において審議して適切に学位授与を行っている。[0405d、0405e、0405f、0405g、0405h]	
長所・特色 ≪箇条書き≫ *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0405	DPに修士論文・学位論文の審査基準を明記している。
項目 No.	
課題事項 ≪箇条書き≫ *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0405	成績評価に対して組織的に確認できる態勢を整える必要がある。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
2017年度は、特に取り組んでいない。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0405	成績評価に対して組織的に確認するための具体的方法を検討する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0404	a	A	国際人間学研究科 2017 年度学事カレンダー
0404	b	A	平成 29 年度博士前期課程 1 年「研究テーマ・研究計画」提出要請文・様式
0404	c	A	平成 29 年度博士前期課程 2 年「修士論文題目」提出要請文・様式
0405	a	A	2017 年度春学期（在学生用）履修申告について（該当箇所 p.18）
0405	b	A	2017 年度秋学期（在学生用）履修申告について（該当箇所 p.17）
0405	c	A	学生便覧（修了要件、評価基準）（該当箇所 pp.45-46）
0405	d	A	国際人間学研究科学位に関する内規
0405	e	A	平成 29 年度修士論文審査要領
0405	f	A	修士論文審査報告書様式
0405	g	A	2017 年度修士論文発表会を開催 GLOCAL Vol.12（該当箇所 p.16）
0405	h	A	2017 年度第 9 回大学院国際人間学研究科委員会議事録（抜粋）

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 4 教育課程・学習成果 (3)

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	卒業認定・学位授与方針(DP)に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1)学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	A
		(2)成績分布、試験放棄(登録と受験の差)、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	A
		(3)学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切なエビデンスに基づく点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)点検・評価結果に基づく改善・向上に取り組んでいますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0406 少人数であるため、個々の授業について指標を設けて学習成果を測定したり、数値化して情報を共有することはしていない。ただし、修士論文構想発表会(1年生対象)や修士論文概要発表会(2年生対象)を開催し、専攻として質的な面から学習成果を確認している。[0406a]
0407 2017年9月、教務支援課から2019年度教育課程変更の有無についての確認があり、それを受けて、各専攻が現行の教育課程の適切性について確認の後、教育課程変更の必要性の有無を判断した [0406b]

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
教育課程を維持するために、退職者等に代わって科目を担当する教員を手当てした。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
0407	公的資格への対応、大学院生の学習・研究のニーズに応じて、教育課程を検討していく。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0406	a	A	2017年度国際人間学研究科修士論文概要報告会、構想報告会等の開催
0406	b	A	(教務支援課) 2019年度教育課程変更手続について (根拠資料0403b参照)

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織 国際人間学研究科

基準5 学生の受け入れ

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP)を定めて、公表していますか。	(1)卒業認定・学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2)明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とHP等の媒体間の記述の統一	A
		(3)社会に対し公表していますか。	A
		(4)下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP)の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
0502	入学者受入れの方針(AP)に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1)入学者受入れの方針(AP)と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2)入学者受入れの方針(AP)に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施方針(CP)と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3)入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	A
		(4)公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5)入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1) 入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・収容定員に対する在籍学生数比率	B
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていますか。	(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・学部内委員会等においてエビデンスに基づいた定期的な検証	A
		(2) 点検・評価結果に基づいた改善・向上を行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0501 AP は入試要項には記載されていないが、HP で公表している。[0501a] 0501・0503 国際人間学研究科独自の進学説明会を年度内に3回実施し、研究科各専攻の求める人材像を入学志願者に示すと共に、入学定員の確保に努めている [0501・0503a、0501・0503b、0501・0503c] 0502 研究科の入試においては問題作成委員と面接委員を複数名の教員で担当することで、公正な入試者選抜を実施している。	
長所・特色 ≪箇条書き≫ *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0501・0503	国際人間学研究科に独自の進学説明会を年度内に3回実施した [0501・0503a、0501・0503b、0501・0503c]
項目 No.	
課題事項 ≪箇条書き≫ *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
0503 国際人間学研究科独自の進学説明会を年度内に3回実施し、入学生数確保に努めた[0501・0503a、0501・0503b、0501・0503c]	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0502	AP と入試内容との関連性の再確認を行う。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0501	a	A	3つのポリシー 大学院国際人間学研究科（根拠資料 0401・0402a、0401・0402b、0401・0402c、0401・0402d 参照）
0501・0503	a	A	国際人間学研究科学内進学説明会開催のお知らせ
0501・0503	b	A	国際人間学研究科 HP 2017年8月2日開催 国際人間学研究科「平成30年度大学院入試説明会」 （公開期間終了）
0501・0503	c	A	国際人間学研究科 HP 2017年12月25日開催 国際人間学研究科「平成30年度大学院入試説明会」 （公開期間終了）

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1)大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	A
		(2)教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(3)学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	—
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1)教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	A
		(2)規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1)FD 活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
0605	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切なエビデンスに基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0602	研究科担当教員の資格に関しては、大学院研究指導の資格審査委員会を設置して審査し、その結果を研究科委員会に諮って審議している。[0602・0603a]
0603	各専攻において、次年度以降の大学院生の指導体制整備や授業編成上の必要に応じて、大学院研究指導の資格審査委員会を設置し、大学院担当資格基準に照らし合わせて審査している。[0602・0603a、0603a]
0604	研究科では、年度末に次年度のFD活動推進計画書を提出し、当計画に基づいてFD活動を実施、次年度の始めに報告書を提出している [0604a、0604b]
6月3日開催の「庭園を読み解く」と2018年2月9日開催の「中国・ヨーロッパ・日本—近代世界の形成とネーション」の2つのシンポジウム、ならびに7月26日および11月22日に開催した教員研究会はこの一環として実施したものである。[0604c、0604d]	
また、院生による研究報告会「院生の力」は、分野を越えて院生と教員とが一緒に意見交換を行う場であり、院生・教員ともに研鑽の場となっている。[0604e]	
0605	教員組織の適切性については、教員の欠員が生じた場合にその都度対応しており、定期的には点検・評価を行っていない。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0604	国際人間学研究科の構成教員による教員研究会を開催している。
項目 No.0604	「院生の力」研究報告会を開催している。大学院の場合、教員から一方的に与える授業ではなく、院生とともに作りあげていくところに、その特徴がある。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0602・0605	退職による欠員の発生に対して、適切な教員組織の編制を維持する必要がある。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
教員組織の適切性については、定年による退職者がいたため、年齢構成のバランス、学位取得予定者の指導の継続性、科目担当者の負担等の観点から雇用延長を要望して認めていただいた。	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0602	教員の担当負担を軽減するために、履修実績等を踏まえて開講科目の精選または隔年開講を検討する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称

0602・ 0603	a	B	大学院研究指導の資格審査委員会の設置について
0603	a	A	大学院担当資格基準（国際人間学研究科）
0604	a	A	2017年度 学部等におけるFD活動推進計画書
0604	b	A	2017年度 学部等におけるFD活動評価点検報告書
0604	c	A	シンポジウム「庭園を読み解く」 GLOCAL Vol.11（該当箇所 p.11）
0604	d	A	シンポジウム「中国・ヨーロッパ・日本」 GLOCAL Vol.12（該当箇所 p.15）
0604	e	A	第8回教員研究会・第7回「院生の力」研究報告会 GLOCAL Vol.12（該当箇所 p.14）

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 7	学生支援
------	------

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2)学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応	A
		(4)学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み ・生活支援面において、方針の目的(安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等)の支援	A
		(5)学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生のキャリア支援を行うための体制(学部との協力・連携を含む)の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施	A
		(6)インターンシップは十分に実施していますか。	A
		(8)学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
--

0702 主担当1名、副担当2名の合わせて3名による指導教授体制をとっており、支援が必要な場合には、何れかの教員に相談できる指導体制をとっている。[0702a] また、基本的な修学・生活の支援に関しては、必要に応じて主担当の指導教授を中心にきめ細かく行っている。[0702b] キャリア支援に関しては、キャリア支援課とも連携の上、指導教授による個別の対応を行っている。進路決定状況については、専攻主任連絡会で確認を行った。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0702	少人数の学生を複数の教員により指導する体制を整えている。[0702a]
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
学修に関する支援を、主担当の指導教授中心に個々の教員が行っている。	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
0702	複数の教員で指導する体制を活かして学生を支援する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0702	a	B	2017年度国際人間学研究科指導教授一覧

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 8 教育研究等環境

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	A
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切なエビデンスに基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0802	院生室・講義室などの整備状況について、特段の問題点は見受けられなかった。必要な図書等については、院生費により購入することができる。[0802a]
0802・0806	心理学専攻においては、2017年7月に公認心理師の大学院カリキュラムが始まった場合の教育研究活動環境について検討した。[0802・0806a]
0806	次年度に向けて研究科で必要とされる教育環境整備について専攻主任連絡会、研究科委員会で検討の後、「平成30年度教育・研究に係る事業計画と予算の提案について」を提出した[0806a]
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0802	院生費が支給されており、必要な図書・備品等を購入することができる。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0802	人文学部と国際関係学部の2つの学部にまたがる研究科であるため、院生室も2か所に分散しており、専攻を越えた学生同士の交流がしづらい状況にある。
項目 No.0802・0806	心理学専攻において、公認心理師大学院カリキュラムが始まった場合、教育研究活動環境の大幅な改善が必要となる。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
学生による自主的な勉強会を定期的に開催し、専攻の枠を越えた交流を行っている。[0802b] 2017年度には施設・設備面での改善は行っていない。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
0802	学生のニーズを把握し、教育研究環境の整備・充実について検討する。
0802・0806	心理学専攻において公認心理師の大学院カリキュラムの実施が決まった場合、作成した資料を元に必要な教育研究活動環境について話し合う。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0802	a	A	平成 29 年度院生費の手引き
0802	b	A	院生自主勉強会 GLOCAL Vol.10 (該当箇所 p.11)
0802・0806	a	A	公認心理師専任教員配置資料
0806	a	A	国際人間学研究科「平成 30 年度教育・研究に係る事業計画と予算の提案について」

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準9 社会連携・社会貢献

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2)社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
		(3)地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0902 6月3日（土）に名古屋キャンパスにおいてシンポジウム「庭園を読み解く」を開催し、併せてキャンパスに隣接する鶴舞公園のガイドツアーを実施した。一般の参加者を含めて67名（ガイドツアーは37名）の参加があった。[0902a] 心理学専攻の教員が、社会貢献活動として生活困窮者世帯の子どもの支援を学生と実施している。[0902b]。	
長所・特色 <<箇条書き>>	*先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No.0902	一般市民向けに鶴舞公園のガイドツアーを実施した。[0902a]
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>>	*向上すべき点、改善すべき点
項目 No.	想定する参加者層に応じたPRの強化を図ることにより、参加者数を増やすことができる。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
対象年度における研究科の社会連携・社会貢献に関する取り組みとして、「庭園を読み解く」を実施した。

--

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0902	外部団体等との共催によるシンポジウムの開催により参加者数を増やしていく。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0902	a	A	シンポジウム「庭園を読み解く」(根拠資料0604c 参照)
0902	b	A	学習教室「きみいろ」告知ポスター

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 毎月、国際人間学研究科委員会開催に先立ち、研究科長・専攻主任・事務長による「専攻主任連絡会」を開催し、研究科委員会の議題の検討のほか、専攻間の情報共有を行っている。 国際人間学研究科では、修了判定、学生の異動、大学院担当資格審査、教育課程の変更などの審議事項のほか、研究科の管理運営における当面の課題についての報告、研究科の教育研究活動のさらなる活性化に向けての提案等を行っている[1120a]	
長所・特色	《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No.	
項目 No.	
課題事項	《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点
項目 No.	
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組	*成果の有無を問わない
毎月、専攻主任連絡会と国際人間学研究科委員会を開催し、管理運営組織、教育研究組織における業務内容の点検を行っている。	

< 今後の向上・改善計画 >

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
--------	-----------------------

1120	国際人間学研究科委員会にて、必要な事項が遺漏なく、適切に報告できるよう、専攻主任連絡会でのさらなる精査を行う。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料 記号	提出 区分	根拠資料の名称
1120	a	A	2017年度 第1回～第10回 国際人間学研究科委員会議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管